

# 「信州の自然と文化」

(第四十七回)

先日長野県を訪れ、諏訪湖畔すわのこほらを探索。何と運が良いのだろう、稀まれにしか見られない自然現象に遭遇そうごうした。湖面が凍りつき、

氷にあけた穴から釣り糸を垂れる市民の姿。遠

くで白く輝くアルプ

スの山々。一面銀世  
界の風景画のようだ。

かつてこの地で

生まれた秀才がいた。

東京帝国大学で多

重電信電話法を発

明し8カ国の特許

を取得した小口太郎

である。京都の三高

時代にはポルト部に

属し、諏訪湖に思いを

馳せながら「琵琶湖周航

の歌」を創作。彼の業績を

讃える顕彰碑や銅像が建立され、

同歌も流れている。近くには与

謝野晶子の文学碑が静かに佇たなずむ。

湖畔に沿って北澤美術館に立

ち寄り、原田泰治美術館に到着

した。日本の懐かしい故郷の美

を描く画家として有名だ。私が大好きなその画風にはリズムとハーモニーが内在し、古き良き歌にびったり。名誉館長であるさだまさし氏との親交も知られており、今後の展開を愉しみにしたい。

## 健康のススメ 板東 浩

以前から不思議に思うことがある。信州では、なぜこれほど芸術や文化が誕生し育つのだろうか。医学的に考えてみた。同県は、ピン・ピン・コクリ（PPK）で知られる長寿県。疫学えき的調査によれば、長寿地域の特徴として、やや厳しい自然条件がある。四季があり雪や氷があるから、自然の美しさを感じ、詩情豊かに歌う。じつくりと考え取り組むから、人間の喜びや悲しみを感じ、思いを画に託す。人々がお互いに支え、慰めなぐさ、励ましあうことにより、大きく成長してきたような気がする。（医学博士・内科医師）